

## 安政江戸地震と次の東京下町地震

## Ansei-Edo-Earthquake and the Next Tokyo-Shitamachi-Earthquake

# 藤原 實 [1]

# Minoru Fujiwara[1]

[1] なし

[1] none

## 【安政江戸地震】

1855年11月11日 M6.9 の直下型地震が江戸の下町を襲い、多大の被害が発生した。死者7000人、全壊家屋14000棟。震央は東京湾北部の隅田川河口付近とされている。

## 1. 深い地震説 (深さ40-70Km)

従来は縦ゆれと横ゆれの時間差についての証言から、深い地震だったと推定していた。

## 2. 浅い地震説 (深さ10Km)

地球シミュレータによりプレート構造を水平400m、鉛直200mの分解能で31億格子にモデル化した。そのシミュレーションの結果、深さ10Kmでほぼ一致した。

参考文献:「安政江戸地震の震源は深いか浅いか」(地震ジャーナル:2005年6月 古村孝志 他)

## 3. 深浅地震連動仮説

従来の深い地震説、新しいシミュレーションによる浅い地震説とも両立させる。つまり深い地震が発生し、その振動がトリガーとなって浅い強力な地震が連動して発生したとする仮説。

## 【次の東京下町地震】

1. 時期(いつ): 30年以内、確率70%とされている。しかし勝手に30後と解釈して、まあ当分の間は大丈夫だろうと高をくくっている傾向が見向けられる。そこで約10年前から現時点までの大きささまざまな地震データを総合的にまとめてみた。すると意外にすぐ近くまで迫っているらしいことがわかった。図の曲線の引き方にもよるが、大体的に見当として、2年以内という結論が出た。

2. 場所(どこで): 首都直下では、太平洋プレート、フィリピン海プレート、陸側プレートが重なり合っていて複雑な動きをしている。太平洋プレートは深さ70~80Kmで西に傾いている。安政江戸地震の時は、沈み込んでいった先の遠州灘の付近で太平洋プレート内の深い地震が先行活動した。深い地震の予想範囲は明治東京地震の震央と最近の千葉県北部地震群の重心の中間付近(江戸川下流河口付近)と推定される。浅い地震の予想範囲は東京湾北部断層を中心として、安政江戸地震の東隣りと推定される。

## 3. 規模(どのような): 安政江戸地震(M6.9)

明治東京地震(M7.0)、西埼玉地震(M6.9)

からM6.9~7.0くらいと推定する。

## 4. 宏観前兆現象?

@江戸川下流域の竜巻雲

@横浜のアブラゼミの異常羽化

@三崎港付近のイケスの魚の大量事故死